



扉【とびら】

宇部市立藤山中学校
3 月 号
2020. 3. 26 発行

『人生はいつもその次』

校長 海 頭 巖

これまでほとんど耳にすることのなかった『コロナ（ウイルス）、パンデミック、クラスター、オーバーシュート』などの語句や『毎日増え続ける感染者数と死亡者数』の報道。これまで全く目にしたことのない『人の気配のないロンドンやパリの情景』の映像。日々、辛く悲しい思いが胸を打ちます。各国首脳も「第二次世界大戦以来、最大の試練に直面している」。「第二次世界大戦以来の挑戦」。「目に見えない敵を打倒する」。「国難突破のため」などの発言。世界中がいかに深刻な問題と直面しているのかを賢明な皆さんなら理解できていることと思います。

3月2日以降、学校の臨時休業に伴い、自由に外出することも叶わず、やむを得ず自宅待機の状態を強いられ、まるで軟禁状態。これも皆さんの『命・安全・健康・暮らし』を守るためのもの。やっと3週間余りが経ちました。期間中、先生方には電話連絡と家庭訪問等で、皆さんの状況を確認して頂き、その報告を聞く度に安堵していました。校庭開放の初日には60名を超える生徒たちが短時間でしたが汗を流し、友だちとのほんのわずかな会話時間だったにせよ、明るさを取り戻せた、さわやかな笑顔を交わしあっていました。学校は、やはり『生徒の会話と笑顔の花が咲く学舎である』ことを再確認しました。生徒の全くいない学校に毎日通ってくることの苦しさ・辛さをもう十分味わわせてもらったと思っています。でも、「もうしばらく、もうしばらくしたら」と自分に言い聞かせながらの毎日でした。我慢し続けてきたことで、『自由の有難さ』をあらためて感じたのは私だけではなかったことでしょう。

さて、この度の卒業式は、新型コロナウイルス感染防止のために、限られた参加者と時間短縮が余儀なくされ、在校生や来賓、地域の方々も参加できず、とても寂しい思いでした。しかし、現在の状況を考えると、致し方ありませんでした。卒業式は厳粛であり、卒業生は素晴らしい返事や態度で、式をとおして凜とした姿を見せてくれ、とても立派なものでした。やはり胸が熱くなり、眼には光るものがあり、味わい深さも感じました。卒業生はきっと『夢や希望を胸に、感謝と素直な心を忘れず、好奇心というカギで未来の扉を開け、命の灯りをしっかり灯してくれる』ことと思います。卒業式に参加した証人の一人として、そのことを申し上げておきます。

私は、これまで『今、ここ』という言葉は何度も使って来ました。皆さんの頭の中、いや心の中に染み込んでいることと思っています。なぜこの言葉を使い続けているかということ、『人生はいつもその次』と思っているからなのです。たとえ今の状況が良くなくても、いや悪くても、次が良ければ人生は楽しいものです。次が良くなるように『今、ここ』を大切に生きていくのが人生だと思っています。ひょっとしたら、幸せになろうと努力している『今このとき』が、最も幸せなのかも知れないなと思ったりもしています。だから『人生はいつもその次』ということなのです。今回の新型コロナウイルス感染防止のために『今、ここ』に全力を傾けて自分がやれることを全力でやったら、そこに『自分が生きる道』が見えてくるのかもしれないかもしれません。今回の苦難を『命を大切にし、命をどう使いきるかをしっかり考える機会』にしたいものです。